



はすだね通信 第42号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成23年8月1日発行

褐斑病及びハスモンヨトウの防除について

今年は7月上旬から猛暑が続きましたが、台風6号の通過以降、蒸し暑く日照時間が短い日々が続いております。さらに今後の天候も先が読みづらい状況です。

今回は、高温多湿が続いた場合に増える恐れがある褐斑病と、猛暑が復活したときに発生の増加が懸念されるハスモンヨトウの防除について対策例を挙げます。



褐斑病について

褐斑病は高温多湿条件で多発生します。糸状菌が原因の病害で、症状は最初、葉に小斑点ができ、発病が激しい場合は葉が枯死します。ハウスでの発生が主ですが、露地栽培でも6月中旬ごろより発生し、曇雨天が続いたあと、台風などの強い風雨があると発生を助長します。

防除は、本病の発生初期に下図の薬剤を散布します。なお、被害残さは伝染源となりますので、できるだけ水中に埋めて下さい。

ハスモンヨトウについて

雑食性の害虫で、夏が高温乾燥の年に大発生します。幼虫は最初、集団で葉を食害し、ある程度大きくなると(中齢以降)分散します。特に谷津田での発生が多い傾向にあります。

防除は、発生初期に下図のBT剤を散布します。BT剤は幼虫が小さいとき(若齢幼虫)にのみ効果を示します。中齢以降は効果が極端に低下するので注意しましょう。

これからの時期に使用できる登録薬剤(例)

適用病害虫	薬剤名(成分名)	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分名-成分の使用回数
褐斑病	トップジンM粉剤	3~4kg/10a	散布	収穫前日まで	3回以内	チオファネートメチル 3回以内
ハスモンヨトウ	フローバック DF	1000倍	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	BT -
	エコマスターBT	1000倍	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	BT -

この資料の作成にあたっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意して下さい。また使用に際しては注意事項をよく読んで下さい。

農業学園でのレンコン講座について

普及センターでは、毎年、主に就農間もない生産者を対象に講座を行う「農業学園」を開催しています。今後の予定は、8月30日に病害虫、9月にはレンコン講座を開催する予定です。学園生は随時募集しております。詳しくは普及センターまでお問い合わせ下さい。

環境にやさしい農業のため、水かけ流しはやめましょう!!!

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8517 Fax 029-822-7370